

綾瀬発・釜石応援プロジェクト



本会では、東日本大震災の被災地である岩手県釜石市を応援するため、平成23年度2回の「ボランティアバスパック」を実施。平成24年度「綾瀬発・釜石応援プロジェクト」を立ち上げ、平成29年度までに18回の支援を実施、今回19回目の支援活動を実施してまいりました。

このプロジェクトは、社協の持つネットワークを生かし、賛同いただける市内の団体にお集まりいただき、企画から実施までを一緒に行うものです。

また、市内の事業所の皆様にも御協力をいただき、食材等の御提供をいただきました。

今年度の活動は現地の方々との交流を通して「私たちはあなた方のことを忘れていません」というメッセージを送り続けていくために、6回目となる天神町仮設団地における「第6回釜石&綾瀬夏の交流祭り」を釜石市社協と共同で実施しました。

プロジェクトメンバー（順不同・敬称略）

綾瀬青年会議所 綾瀬アカデミー 綾瀬市商工会青年部 ブタッコリ～推進委員会
あやせ災害ボランティアネットワーク 市民活動センターあやせ
（株）タウンニュース社綾瀬編集室

食材等提供（順不同・敬称略）

（株）ラテン大和 ファイアート神奈川 （有）青柳商店

協力・共催機関（順不同・敬称略）

釜石市天神町仮設団地自治会・釜石市天神町仮設団地商店街・釜石市社会福祉協議会

第1期 平成30年7月27日(金)～29日(日) 参加者21名

第6回釜石&綾瀬夏の交流祭り 両石地区と鶴住居地区を視察

午前中の前半は、釜石市社協の元事務局長矢浦氏のナビゲーションのもと、バスの中で津波が到来する瞬間のビデオを観ました。そしてそのビデオが撮影された両石公園にて撮影者である瀬戸さんから直接お話を聞くことができました。壮絶な体験と復興までの足取りをその現場で聞くことができたのは、本当に貴重な体験となりました。

午前中の後半は、鶴住居地区に移動し、高台に建設された鶴住居小中学校から街全体を見下ろしました。矢浦氏から震災前の写真を見せていただき、今までのプロジェクトで何度も訪れた防災センターの話しや“釜石の奇跡”と言われた子供たちの高台避難の話しを改めて聞くことができました。そして、今釜石で一番熱いスポットである完成直前の「釜石鶴住居復興スタジアム」を目の前で見ることができました。

午後は、雨が降る中、天神町復興公営住宅に到着すると釜石市社協の皆さんと、住民の皆さんが協力してブルーシートで屋根を作ってくださいました。こんな何気ないことが長年一緒に行ってきた成果のように感じます。今年も参加したボランティア全員で、バーベキュー、焼きそば、綿菓子、ポップコーン、水風船などを分担し、釜石の皆さんをおもてなしました。雨も途中から止んで時々日が差す中、今回のアトラクションは地元のフラダンスサークルの皆さんが踊りや歌で会場を盛り上げてくださいました。さらに、去年は雨で行うことができなかった花火を打ち上げることができ、子供たちも大はしゃぎでした。



東日本大震災から7年が経ちました。

綾瀬市社協では、震災直後に行ったボランティアバスパックを含め、今年度で19回の釜石訪問を行い、スタッフを含め延べ571名の方々に参加いただき、様々な支援活動を行ってきました。

がれきの撤去に始まり、現地の栄養士と共同で開発した「クリームシチューうどん」を振舞ったのがこのプロジェクトの第1回目、公園の中にできた小さな仮設団地の支援が最初でした。その後、個人宅のがれき撤去や海水浴場復帰活動、塩害を受けた畑の開拓、草むしりなどの作業と仮設団地の交流支援をふた班に分かれ実施、多い年は4回足を運びました。

寝泊まりしたところも、バスパックの時は遠野の公民館に寝袋で宿泊。その後神奈川県が設置したボランティア支援ステーション金太郎ハウスで宿泊し、現在はシーガリアマリンホテルが宿泊場所となったため、活動が終わってからの移動時間が大幅に短縮されました。

天神町仮設団地を初めて訪れたのは第2回のときでした。お祭りは設営中の大雨が開会とともにピタリと止み、模擬店の他、キャンドルナイトや大道芸なども行われ、盛大に開催することができました。しかし、置いてあるものをも勝手に持っていくお年寄りや、一人一個と言っても無視して何個もお菓子を持っていく子供達の姿を目の当たりにして、価値観や感覚を正常に戻していくことも大きな役割であることを釜石市社協の職員と確認し合ったものです。今では、物はお金で買うということやルールを守るという当たり前のことが元通りになり、被災した方々の表情も柔らかくなりました。

すっかり報道されなくなりましたが、5月末で釜石市の仮設団地数は43地域、1,223人、578戸の方が未だに困難な仮設暮らしをしています。私たちがずっと支援してきた天神町仮設団地も以前より空室が目立つようになりましたが、それでもたくさんの方々が生活しています。一方では復興公営住宅の建設も急ピッチで進み、全ての建設が年度内に終わる目処も付いたそうです。街もすっかり変貌しました。しかし、震災直後に見た光景を忘れることはできません。壮絶な話しも忘れてはいけません。

今回は20回目の節目の回となります。この活動を始めた原点をもう一度思い出し、被災地とともに歩んで行こうと思います。

がんばろう釜石！！

綾瀬市社会福祉協議会